

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	活力ある学校づくり推進事業	コード	4103
-------	---------------	-----	------

2 担当部課	部等 教育部	課等 教育総務課	作成者 小口 明彦
--------	--------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち		
		政 策	学校教育の推進	施 策	学校教育の推進
		予算科目	活力ある学校づくり推進事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	あり
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 （簡潔に）	国のモデル事業の実施や、小中学校での特色ある取り組みを支援する。
目的	対象者 児童・生徒・教職員
	意 図 統合を契機に、市内全小中学校の魅力と活力ある学校づくりを推進する。

5 事業の実施内容	*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
	<p>○引き続き県から派遣された主任指導主事を中心に、学校統合を契機として取り組みが始まった岡谷スタンダードカリキュラムの全市的な展開と実践の充実を図った。</p> <p>また、岡谷版コミュニティスクールの定着化と充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり体験学習として市内企業と連携した「ものづくりロボットプログラミング学習」及び「ロボット製作」を市内全小学校の4年生で実施した。 ・地域人材を活用した学習支援を実施した。 ・夏休み期間中の小学生に対し、学習支援を実施した。 ・小中学校の総合的な学習の時間を通じた特色ある取り組みに対し、魅力ある学校づくり交付金を交付した。
前年度の課題への対応	・中学校技術科教員や、岡谷工業高等学校と連携し授業を実施した。

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	小中学校数			単位	校
実績値	11	11	11		
* 指標の説明					
② 成果指標（指標名）	小中学校数			単位	校
目標値	11	11	11	11	
実績値	11	11	11		
達成度	100.0%	100.0%	100.0%		
* 指標の説明					
* 目標値の設定方法の説明					

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	4,347,720	5,322,066	5,226,404	5,638,000
経常経費	0	0	0	0
臨時的経費	4,347,720	5,322,066	5,226,404	5,638,000
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	6,800,000	7,200,000	7,200,000	7,200,000
正規職員の人数(人)	0.85	0.90	0.90	0.90
③ 合計コスト(①+②)	11,147,720	12,522,066	12,426,404	12,838,000
前年度比		112.3%	99.2%	103.3%
財源				
一般財源	11,147,720	12,522,066	12,426,404	12,838,000
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	618,182	654,545	654,545	
前年度比		105.9%	100.0%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
魅力ある学校づくり 交付金	件数	11	11	11	11
	金額	2,998,000	3,014,000	3,014,000	3,028,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	2,998,000	3,014,000	3,014,000	3,028,000
	割合	68.96%	56.63%	57.67%	53.71%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価	* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。	妥当性	高い
評価項目		はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。		1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。		1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。		1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		1	

9 有効性評価	* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。	有効性	高い
評価項目		はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。		1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。		1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比	100.0%	1
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度	100.0%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・岡谷スタンダードカリキュラムを持続可能なものにするために管理体制等を明確化する必要がある。 ・主任指導主事以外の「ものづくりロボットプログラミング学習」授業実践者を育成する必要がある。 	
改善方法	(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全小中学校の教職員による、各事業の見学、研修を実施する。 ・引き続き、中学校技術科教員や、岡谷工業高等学校と連携し、授業者の育成を図る。 	
	改善開始時期	令和2年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	--	---